

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和5年度）

1. 施設名等

施設名	大分県社会福祉介護研修センター	所在地	大分市明野東3丁目4番1号
		電話番号	097-552-6888
		ホームページ	https://www.okk.or.jp

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 社会福祉法人 大分県社会福祉協議会	県の所管部課 (局・室)	福祉保健部 高齢者福祉課 TEL：097-506-2692
	所在地 大分市大津町2丁目1番41号		
	指定期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日		

3. 施設の概要

設置年月日	平成5年11月12日
設置根拠	大分県社会福祉介護研修センターの設置及び管理に関する条例
設置目的	社会福祉事業に従事する者に対する研修、介護に関する研修、福祉用具の展示等を行うことにより、社会福祉事業従事者の資質の向上と県民の介護に対する理解と参加の促進を図り、もって県民の福祉の増進に資する。
事業内容	①社会福祉事業従事者を対象とする研修 ②介護に関する研修 ③高齢者及び介護者の総合相談 ④福祉人材に係る無料職業紹介 ⑤福祉機器等の展示及び情報提供 ⑥①～⑤のほか、社会福祉介護研修センターの目的を達するために必要な事業
施設内容	大ホール[200人室]、小ホール[100人室]、研修室、図書情報室、調理実習室、和室実習室、トイレ実習室、ペット実習室、入浴実習室、相談室、休憩室・食堂、福祉用具展示場、高齢者総合相談センター、福祉人材センター（福祉人材無料職業紹介所）、住宅改造モデル展示場、災害物資備蓄倉庫
使用料等	該当なし
閉館日	①月曜日、②国民の祝日（その日が土曜日又は日曜日に当たるときを除く） ③12月29日から翌年の1月3日までの日

4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
利用者満足度 評価レベル4.5以上(R元、2) 評価レベル4.6以上(R3～) (5段階評価)	令和2年度	4.5	4.60	102.2%
	令和3年度	4.6	4.62	100.4%
	令和4年度	4.6	4.66	101.3%
	令和5年度	4.6	4.69	102.0%
利用者数 延べ利用者数 50,000人以上	令和2年度	49,000	24,790	50.6%
	令和3年度	49,000	24,915	50.8%
	令和4年度	50,000	34,191	68.4%
	令和5年度	51,000	35,380	69.4%

5. 施設の利用状況

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	累計
	令和2年度	229	508	2,252	2,887	2,336	2,791	
令和3年度	1,073	1,323	2,162	3,144	2,479	1,569		
令和4年度	1,494	2,178	3,493	2,287	2,660	3,432		
令和5年度	1,287	1,985	2,312	3,263	2,171	5,212		
利用者数(人)	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和2年度	3,896	3,315	2,115	1,743	1,478	1,240	24,790
	令和3年度	3,387	3,627	2,662	1,086	1,062	1,341	24,915
	令和4年度	5,300	4,308	1,730	3,462	2,422	1,425	34,191
	令和5年度	6,525	4,436	2,081	2,528	2,631	949	35,380

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	<p>①全研修会の受講者、②福祉人材センターの来館者、③福祉用具展示場・高齢者総合相談の来館者にアンケートを実施 アンケート内容:内容等にかかる5段階評価及び施設・職員対応等に対する意見記入 ①対象研修数: 48 対象者数:16,382名 回答者数:15,311名 回収率:93.5% ②対象者数:864名 回答者数: 27名 回収率: 3.1% ③対象者数:826名 回答者数:132名 回収率:16.0%</p>
	実施結果	<p>①研修会のアンケートの評価レベルは、4.69と目標数値を上回った。 ・最高:5.00 最低:4.35 平均4.69 ・アンケート調査を分析し、受講者の要望等を次年度以降の研修の企画等に反映させてきた結果テーマ設定、講師選定ともに受講者の評価は高く、平均値は高水準で推移している。 ・意見についても、研修内容、講師選定、施設の整備・維持、職員の対応等に対し良好な評価を得ている。 ②福祉人材センター 最高:5.00 最低:5.00 平均5.00 ③福祉用具展示場・高齢者総合相談 最高:5.00 最低:4.64 平均4.87 *②、③は月ごとの評価数値(月平均)の中で最高、最低を記載している。</p>
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
介護技術の研修、福祉用具展示等を行っていることを多くの人に知ってもらえるよう取り組んでほしい。		市町村広報誌、新聞広告、タウン誌、SNS等で講座の実施を広報している。より周知できるよう、今後も方法を検討する。
図書情報室を利用したいので、おすすめの図書等をホームページで紹介してもらえるとありがたい。		センター内やホームページに新着図書、話題の図書の情報を随時掲載するほか、その日開催される研修のテーマに即した書籍を移動図書室(カート)に置き、より関心を高めてもらえるような工夫もしている。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<p>① リハビリ専門職(PT等)を複数配置し、専門的な知識技術の普及啓発体制を強化している。特に高齢者総合相談業務については、障がいに応じた福祉用具等の相談や試用の増加、土日の専門職員による相談対応を行っている。また、介護教室でも新規に福祉用具教室を開催し、県民の在宅生活・介護の支援を強化している。</p> <p>② 令和4年6月に設置した介護ロボット普及推進センターは、職員を増員し、介護ロボット・ICT機器等の相談対応、体験展示、試用貸出及び機器導入に向けた助言等きめ細かな支援を行い、職場の環境改善、業務効率等、介護現場の革新が進むよう取り組んだ。</p> <p>③ 福祉用具展示場では、企業の協力により、最新の用具等の展示に加え介護ロボット・ICT機器等も充実し、介護現場の職員にとってICT化をイメージしやすく、知識の習得や体験ができるようにしている。またホームページ上に設けたオンライン展示場やKAIGOSWITCH(カイゴスイッチ)での情報提供により、当センターに来所しなくても介護ロボット等の利活用の方法を見ることができるよう対応している。また、隣接する住宅改修モデル展示場はWi-Fiを設置して見学者の利便性を確保するとともに、在宅生活をイメージできる機器配置やディスプレイとし在宅介護を支援している。</p> <p>④ すべての研修の受講者、高齢者総合相談センターや福祉人材センターの来所者、またホームページ上でもアンケート調査を実施し、さらにセンター各階には「ご意見承り箱」を設置するなど、幅広く利用者の声を聞いている。利用者の意見・要望は、毎月開催する所内会議で検討し、事案に応じ対応できるものは速やかに実施するとともに、意見等に対する回答書を作成し、月毎にまとめて1階階段横の掲示場所にファイルを備え付けている。</p> <p>⑤ 多くのニーズがある認知症高齢者を地域で支えるための「認知症講座」を継続するとともに、「認知症予防教室」の内容を拡充した。また、介護健康教室では健康志向の高まりを受け、睡眠に関する教室を新規で実施するなど、適宜時勢に沿う内容を検討し開催している。</p> <p>⑥ 求職者の求職活動の参考資料となるよう、「社会福祉施設ガイドブック2024」を作成・配布した。また、福祉人材センター専用ホームページで最新の求人情報、就職フェアや研修会などのイベント情報を発信するとともに、中学生の進路選択の参考として活用してもらうため、福祉の仕事魅力紹介パンフレット「教えて！福祉のお仕事(中学生版)」を作成し、県内全中学校に配布した。また、キャリア教育の一環として、介護職として働く意義や働く人々の様々な思いを理解し、進路や職業選択の役立ててもらおう「福祉のお仕事魅力発見セミナー」を高校2校で実施した。</p>
イベント等の充実	<p>① 福祉のしごと就職フェアを対面方式で実施 ・夏フェア(R5年8月19日)・・・ホテル日航大分オアシスタワーで実施 参加事業所:40事業所 求職者:68名(学生11名、一般57名) ・春フェア(R6年3月2日)・・・ホテル日航大分オアシスタワーで実施 参加事業所:39事業所 求職者:59名(学生34名、一般25名) ・地域別就職フェア・・・県内5地域で実施 参加事業所:64事業所 求職者:94名</p> <p>② センターまつり2023の開催 ・日頃の利用への感謝と福祉関係者や県民の福祉・介護に対する理解と啓発を図るために実施。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症のため中止していたが、センター開設30周年の記念事業として4年ぶりに開催し、千名を超える来場者があった。</p> <p>③ 広く県民に福祉用具や介護ロボット・ICT機器等を普及啓発するため、出前講座やイベント等の機会を活用し、児童から高齢者まで幅広い世代や、普段介護とは接点のない子育て世代の家族等に体験してもらうよう取り組み、介護ロボット等への理解促進を図った。 ・中津市社協 三光児童館わいわいまつり介護ロボット出張展示(三光コミュニティーセンター、R5年7月23日、158名) ・OAB大感謝祭 もっとJIMOTTO!介護ロボットブース(J:COMホルトホール大分前、R5年9月30日～10月1日、1,705名) ・杵築市教育委員会 グローバル塾(杵築市公民館、R5年10月21日、39名) ・日本文理大学 一木祭 小学生のお仕事体験(日本文理大学、R5年10月22日、18名) ・別府市社協 福祉&消防まつり(別府公園、R5年11月12日、210名)</p>

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入額(A)		197,566	208,608	224,086	223,634
内 訳	県からの委託料	155,266	164,483	166,652	165,843
	利用料金	37,729	40,002	53,188	53,131
	事業収入	204	200	204	204
	自主事業収入	4,367	3,923	4,042	4,456
	その他(繰入金)	0	0	0	0
支出額(B)		197,566	208,608	224,086	223,634
内 訳	人件費	101,152	116,505	120,790	124,541
	維持管理費	31,408	33,051	33,158	33,407
	事業費	35,024	33,145	35,213	33,875
	自主事業費(別途委託)	29,982	25,907	34,925	31,811
収支差額(A-B)		0	0	0	0

9. 施設使用料等の収入状況

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和2年度							
	令和3年度							
	令和4年度							
	令和5年度							
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和2年度							0
	令和3年度							0
	令和4年度							0
	令和5年度							0

10. 指定管理者の管理体制

施設管理体制	所長(嘱託) 副所長(嘱託) <ul style="list-style-type: none"> - 総務・人材部長(兼副所長) 部員 13 (プロパー2 嘱託11) - 社会福祉研修部長(プロパー) 部員 6 (プロパー3 嘱託3) - 介護実習・普及部長(プロパー) 部員 7 (プロパー1 嘱託4 業務援助1 派遣1) - 高齢者総合相談部長(兼介護実習・普及部長) 部員 4 (嘱託3 業務援助1) 							
	職員数(R5.4.1)	正規職員	パート	嘱託	他社から派遣	臨時職員	その他	合計
	8	0	23	3	0	0	34	

1 1. 適正な管理運営に係る主な取組内容

<p>職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>① OJTを通じ、職員の能力向上に努めた。 ② 利用者アンケートの内容を反映した企画や講師との打合せなど、職員の研修企画力向上に努めた。 ③ 関係機関が開催する専門研修等に積極的に参加し、専門知識やスキルを深めた。 (オンラインによる参加) ・福祉人材情報システム研修会 ・福祉人材センター業務・法令研修会 ・職業紹介責任者講習会(オンライン講習会) ・令和5年度 九州ブロック介護実習・普及センター代表者及び担当者会議 ・令和5年度 第3回介護実習・普及センター等オンラインミーティング ・高齢者疑似体験インストラクター養成研修会 ・相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議(ハイブリッド) ・全国介護ロボットフォーラム ・生産性向上の取り組みに関する介護事業所向けフォローアップセミナー、実践報告会 ・福祉-医療スキルアップ移住推進事業セミナー (開催地参加) ・九州ブロック福祉人材・社会福祉研修実施機関連絡会議(那覇市) ・杵築市医療介護連携会議(杵築市) ・大分県福祉用具総会(大分市) ・大分県理学療法士協会総会(大分市) ・第37回大分県国保地域医療学会(大分市) ・介護職トーク会(大分市) ・令和5年度大分県高齢者福祉施設等実践研究大会(大分市) ・介護現場における生産性向上推進地域フォーラム(神戸市) ・相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議(東京都) ・相談窓口・リビングラボネットワーク九州版連携会議(北九州市) ・多重債務者対策連絡会議(大分市) ・介護老人福祉施設オアシス宇佐ノーリフティングケア研修会(宇佐市) ・令和5年度法テラス大分地方協議会(大分市) ・おむつフITTER3級研修 ・国際福祉機器展2023(東京都) ・社会福祉法人スマイリング・パーク視察(都城市) ・ひょうご福祉のまちづくり研究所視察(神戸市) ・社会福祉法人善光会視察(東京都)</p>
<p>防災に関する 研修・訓練</p>	<p>① 年度当初、「施設管理マニュアル」「事故等対応マニュアル」「ウイルス感染症マニュアル」の周知徹底を図るとともに、平常時からの危機管理意識保持に努めた。 ② 職員に消防計画を周知し自衛消防隊設置時の各自の任務を確認するとともに、消防訓練(年1回)を実施し、緊急時には全職員が適切に対応できる体制とした。 ③ 介護研修センターを含む県社協の所属長で構成する部所長会議で災害発生時の行動や災害ボランティアセンター設置・運営について確認するとともに、事業継続計画(BCP)の見直しを行った。</p>
<p>安全対策 等</p>	<p>① 必要に応じて部屋を施錠し事故防止を図るとともに、防犯・環境美化のため、日常的な館内の見回りを行った。 ② 危険箇所の早期発見のため、施設や設備等の日常点検を行うとともに、破損や故障箇所等について速やかに修繕を行った。特に実習に使用する備品については、実習前点検も行い、事故の未然防止に努めた。 ③ エレベーター、自動ドア等の施設設備については、専門業者による定期保守点検を行った。 ④ 利用者の安全確保につながるよう、職員が大分市消防局の普通救命講習を受講し、心肺蘇生法、AEDの取扱い等の応急処置を学んだ。(修了者28名)</p>